

工業会活動

2019年度(令和元年度) 航空機生産・輸出・受注額(改訂)見通し

(一社)日本機械工業連合会が実施する「2019年度(令和元年度)機械工業生産額(改訂)見通し調査」に関する調査依頼を受け、当工業会は会員企業26社の協力を得て「航空機生産・輸出・受注額見通し」の調査を実施した。

2013年度以降、急速に拡大し2015年度に1.8兆円を超えた生産額は、2016年度に反転下落したが、2017年度以降は1.7兆円台を回復したのち、2019年度は1.8兆円弱の見通しとなることが今回の調査で確認された。その主な要因として、2017年度以降、Boeing 777の生産が減少した一方でBoeing787の生産増等を背景とした民間向け「機体部品」の生産回復による増、民間向け「エンジン部品」及び防衛向け「装備品」の増が挙げられる。

また、2013年度以降、急速に拡大した受注額は、2015年度の1.9兆円弱をピークに以降下落し続け、2018年度は1.6兆円、2019年度は1.6兆円を下回ることが確認された。その主な要因は、2018年度は防衛向け「機体本体」、民間向け「機体部品」及び防衛向け「装備品」の減、2019年度は防衛向け「機体本体」、民間向け「機体部品」及び「エンジン本体」の減が挙げられる。

今後については、防衛向けではP-1固定翼哨戒機やC-2輸送機等の調達に伴う安定的な生産が期待される。民間向けでは日本企業が参画するボーイング777は減産に入っているが、ボーイング787の受注は好調に推移し、本年から更に増産している。ボーイングの次期主力機777Xの初号機納入が計画どおり2020年末に行われれば、それ以降777Xの生産は本格化する。こうした状況を踏まえると、今後の航空機生産は拡大基調が期待される。

調査結果の概要について、以下に記す。

1. 生産額

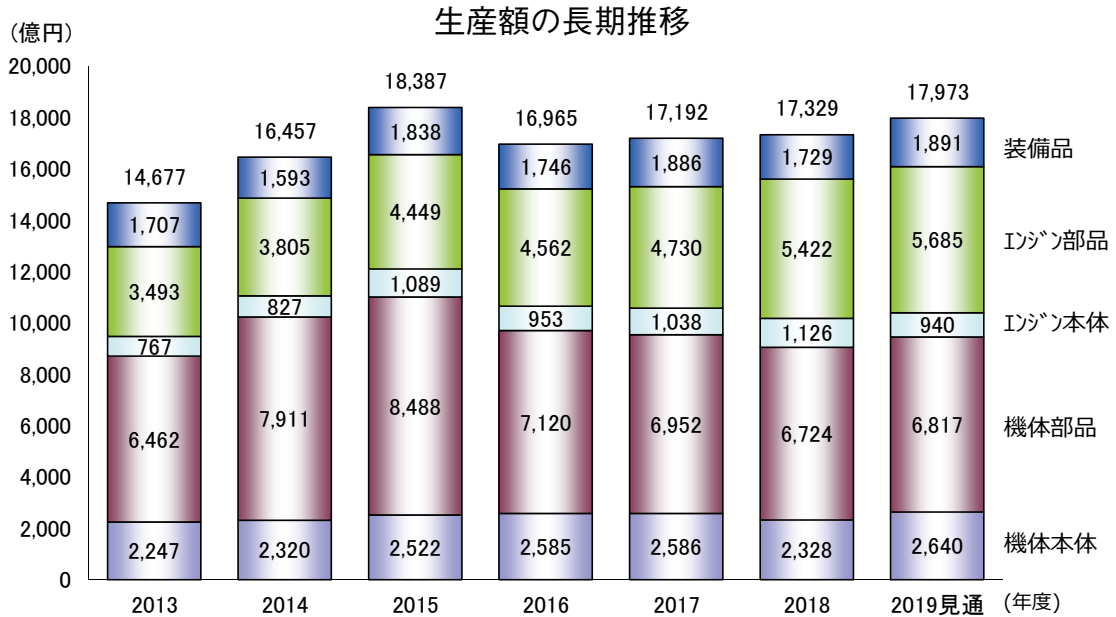
(1) 全般

- ◇「2018年度実績額」は1兆7,329億円で前年比137億円(0.8%)の増となった。
- ◇「2019年度見通し額」は1兆7,973億円で前年比644億円(3.7%)増の見通し。

(2) 内訳

①機体関連

- ◇2018年度は、「機体本体」は防衛向けC-2輸送機の減等により258億円減の2,328億円、「機体用部品」がBoeing向け777用部品の減等により228億円減の6,724億円で、「機体合計」では、485億円減の9,053億円となった。



生産額の長期推移

(単位：億円)

区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019見通
機体本体	2,247	2,320	2,522	2,585	2,586	2,328	2,640
機体部品	6,462	7,911	8,488	7,120	6,952	6,724	6,817
(小計)	(8,709)	(10,232)	(11,010)	(9,705)	(9,538)	(9,053)	(9,457)
エンジン本体	767	827	1,089	953	1,038	1,126	940
エンジン部品	3,493	3,805	4,449	4,562	4,730	5,422	5,685
(小計)	(4,261)	(4,632)	(5,538)	(5,515)	(5,768)	(6,548)	(6,625)
整備品	1,707	1,593	1,838	1,746	1,886	1,729	1,891
計	14,677	16,457	18,387	16,965	17,192	17,329	17,973

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

◇2019年度は、「機体本体」は防衛向けC-2輸送機の増等により312億円増の2,640億円、「機体用部品」はBoeing向け787用部品の増等により93億円増の6,817億円、「機体合計」では、404億円増の9,457億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2018年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジンの増等により88億円増の1,126億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により692億円増の5,422億

円で、「エンジン合計」では、780億円増の6,548億円となった。

◇2019年度は、「エンジン本体」は防衛向けエンジンの減等により186億円減の940億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により263億円増の5,685億円で、「エンジン合計」では、77億円増の6,625億円の見通しである。

③整備品

◇2018年度は、防衛向け航空機搭載整備品の減等により、157億円減の1,729億円と

なった。

◇2019年度は、防衛向け航空機搭載装備品の増等により、162億円増の1,891億円の見通しである。

2. 輸出額

(1) 全般

◇「2018年度実績額」は1兆1,369億円で前年比659億円（6.2%）の増となった。

◇「2019年度見通し額」は1兆1,660億円で前年比291億円（2.6%）増の見通し。

(2) 内訳

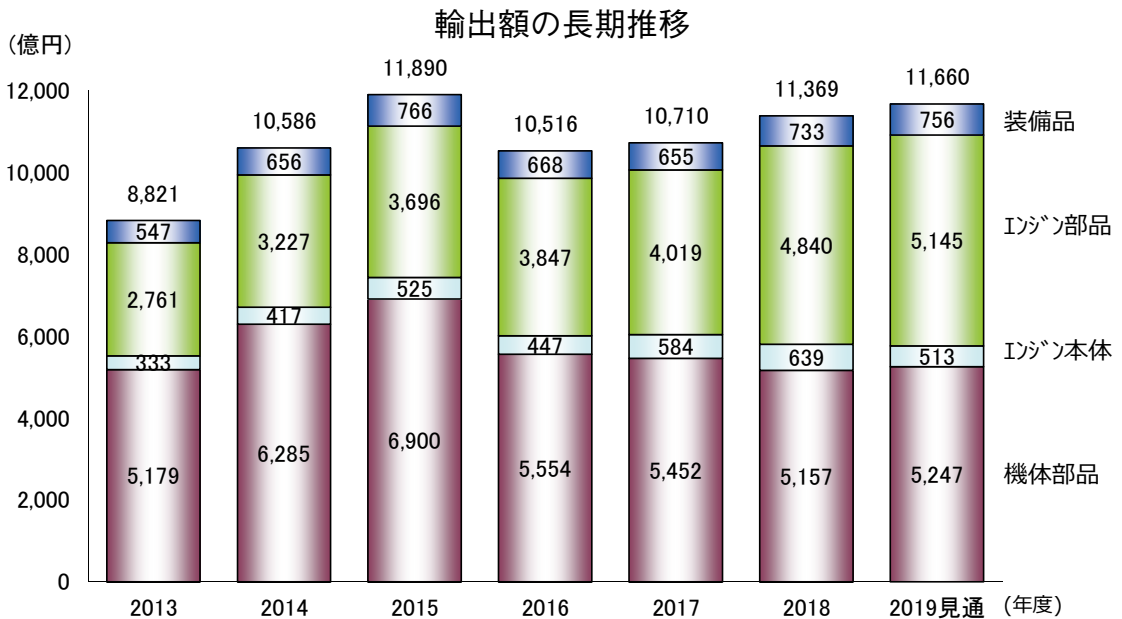
①機体関連（機体部品のみ）

◇2018年度は、Boeing向け777用部品の減等により295億円減の5,157億円となった。

◇2019年度は、Boeing向け787用部品の増等により90億円増の5,247億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2018年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により55億円増の639億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増



輸出額の長期推移

(単位：億円)

区分 \ 年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019見通
機体本体	1	0	2	0	0	1	0
機体部品	5,179	6,285	6,900	5,554	5,452	5,157	5,247
(小計)	(5,180)	(6,285)	(6,902)	(5,554)	(5,452)	(5,158)	(5,247)
エンジン本体	333	417	525	447	584	639	513
エンジン部品	2,761	3,227	3,696	3,847	4,019	4,840	5,145
(小計)	(3,094)	(3,645)	(4,221)	(4,294)	(4,603)	(5,479)	(5,658)
装備品	547	656	766	668	655	733	756
計	8,821	10,586	11,890	10,516	10,710	11,369	11,660

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

等により821億円増の4,840億円で、「エンジン合計」では、876億円増の5,479億円となった。

◇2019年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の減等により126億円減の513億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により305億円増の5,145億円で、「エンジン合計」では、179億円増の5,658億円の見通しである。

③ 装備品

◇2018年度は、民間機向け内装品の増等に

より78億円増の733億円となった。

◇2019年度は、民間機向け内装品の増等により23億円増の756億円の見通しである。

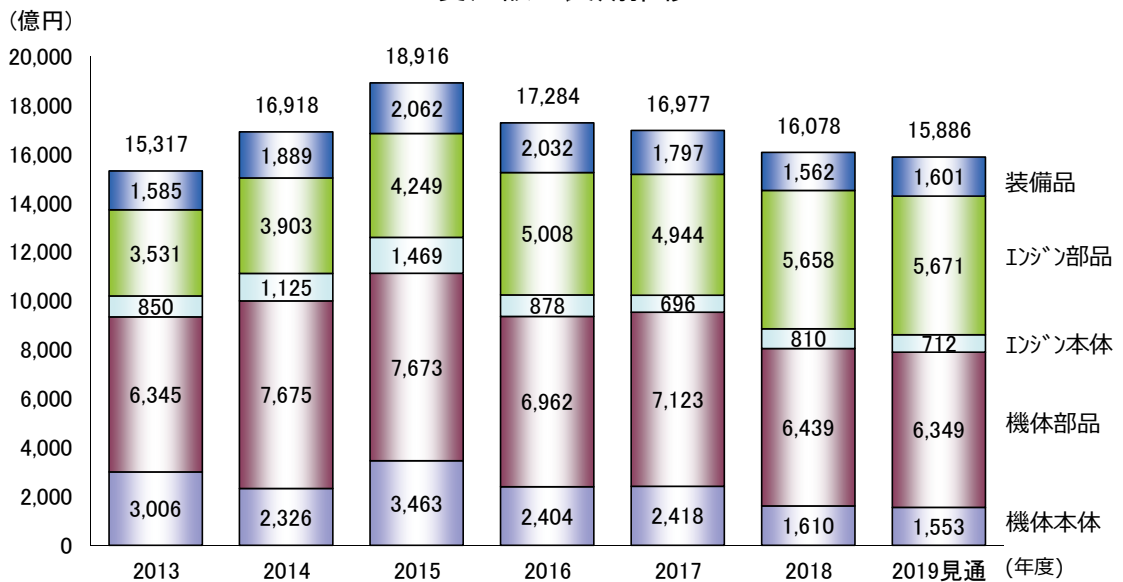
3. 受注額

(1) 全般

◇「2018年度実績額」は1兆6,078億円で前年比899億円（5.3%）の減となった。

◇「2019年度見通し額」は1兆5,886億円で前年比192億円（1.2%）減の見通し。

受注額の長期推移



受注額の長期推移

(単位：億円)

区分	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019見通
機体本体		3,006	2,326	3,463	2,404	2,418	1,610	1,553
機体部品		6,345	7,675	7,673	6,962	7,123	6,439	6,349
(小計)		(9,351)	(10,001)	(11,136)	(9,366)	(9,541)	(8,049)	(7,901)
エンジン本体		850	1,125	1,469	878	696	810	712
エンジン部品		3,531	3,903	4,249	5,008	4,944	5,658	5,671
(小計)		(4,381)	(5,028)	(5,718)	(5,886)	(5,639)	(6,468)	(6,383)
装備品		1,585	1,889	2,062	2,032	1,797	1,562	1,601
計		15,317	16,918	18,916	17,284	16,977	16,078	15,886

(注) 四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない。

(2) 内訳

①機体関連

◇2018年度は、「機体本体」は防衛向けCH-47輸送ヘリコプターの減等により808億円減の1,610億円、「機体用部品」が海外向け民間機用部品の減等により684億円減の6,439億円で、「機体合計」では、1,492億円減の8,049億円となった。

◇2019年度は、「機体本体」は防衛向け機体修理の減等により57億円減の1,553億円、「機体用部品」が海外向け民間機用部品の減等により90億円減の6,349億円で、「機体合計」では、148億円減の7,901億円の見通しである。

②エンジン関連

◇2018年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の増等により114億円増の810億円、「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により714億円増の5,658億円で、「エンジン合計」では、829億円増の6,468億円となった。

◇2019年度は、「エンジン本体」は海外向け修理の減等により98億円減の712億円、

「エンジン用部品」が海外向け部品の増等により13億円増の5,671億円で、「エンジン合計」では、85億円減の6,383億円の見通しである。

③装備品

◇2018年度は、防衛向け航空機搭載装備品の減等により235億円減の1,562億円となった。

◇2019年度は、防衛向け航空機搭載装備品の増等により39億円増の1,601億円の見通しである。

<調査対象企業：26社>

IHI、KYB、川崎重工業、小糸製作所、島津製作所、ジャムコ、昭和飛行機工業、シンフォニアテクノロジー、新明和工業、住友精密工業、多摩川精機、東京計器、東京航空計器、東芝インフラシステムズ、ナブテスコ、日本航空電子工業、日本電気、日本飛行機、SUBARU、富士通、三菱重工業、三菱電機、三菱プレジジョン、横河電機、横河電子機器、横浜ゴム

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部長 杉原 康二〕